

幸子の映画

食べある記



★「美しき繁栄の街ウィーン」★

遠い街に旅する楽しみは、映画で見た場所に立つこと。映画を見たとき、訪ねた事のある場所が映ったら楽しみは倍増です。見てから行くか、見る前に行くか・・・それが問題だ・・・と。

旅程が決まって映画の舞台になっていたとしたら、だいたいその映画を見てから行きます。今まで一番感激したのは「旅情」の舞台となったベネチア、サンマルコ広場の一番古いカフェで籐の椅子に腰かけたとき、おもわず涙が出てきました。もう一度是非行きたいところですが、すぐにも行きたいのは「ウィーン」です。王宮のあるシェーンブル宮殿の大広間を舞台にした「会議は踊る」ドナウ川近くの自然公園に立つ大観覧車は

「第三の男」で有名ですし、郊外にあるウィーンの森は「うたかたの恋」で有名。その総てを昨年十二月、一二〇名の視聴者の方々と楽しんでまいりました。このたびの旅行は単に歴史的、ドラマ的背景に身を置いたにとどまらず「運命」を感じる出来事が数か月後に起こり、忘れられない旅になりました。ウィーンと言えばオペラハウス、ウィンナーワルツ、ウィーン少年合唱団、前回ご紹介したヴァーテルが考案したホイップクリームをのせたウィンナーコーヒー。現地では「アインシュペナー」、それにオレンジリキュールを入れたら「マリア・テレジア」などと呼ばれています。

オーストリアのウィーンは十三

世紀から二十世紀初頭まで六四〇年間北欧諸国を治める王室、ハウスブルグ家の居城がありヨーロッパに重要な役割を果たしてきたとも言えます。王家の繁栄で宮廷音



クッキングキャスター

星澤 幸子

text : Hoshizawa Satiko

楽家が育ち、オペラが完成し、画家が育ちました。

ウィーンに入ったのは十二月十一日。かつての栄光を今もそのまま残した豪華な建築物がクリスマスイルミネーションに映えてうつとりする美しさです。ハウスブルグ家が繁栄していた頃の女帝マリア・テレジアが完成させたシェーンブル宮殿。外壁はマリア・テレジアエローに塗られ二〇〇〇室の各部屋の豪華さには目を見張り



ます。フランスのベルサイユ宮殿に似せ、それより豪華にならないように配慮したと言われています。「会議は踊る」の映画ではシェーンブル宮殿「大広間」を使って撮影されました。

一六人の子を産みながら統治していたのですから、頭も体も人並みはずれていたのでしょうか。その娘マリー・アントワネットはフランス最後の国王ルイ十六世に嫁ぎました。

は町中の宮殿が夕食会場でウインナーワルツの生楽団付き、豪華な装飾の壁、フレスコ画の書かれた美しい天井はもう夢心地です。出てくる料理はフルコースですが味が濃くなく、シンブルな作りの物が多くて戴きやすかったです。

ウインナーワルツでダンサーも踊ってくれました。相手になってもらおうと思ったのですが、普通のワルツしか踊れないので・・・。

この次はきつとマスターして舞踏会デビューするんだ！

「うたかたの恋」で知られる、ハウスブルグ家の狩猟の地であった郊外のカフェで戴いたのは「ザツハトルテ」ココア生地のカークにチヨコレートがかかった、ウイーンの代表的菓子で濃厚な味わいです。ウイーンのもっともポピュラーな料理は「ウイナー・シュニツェル」子牛のカツレツです。薄く広げて日本のカツの様に、たっぷりの油で焼いています。豚とは違って柔らかくさっぱりしています。形はおおざっぱ。付け合わせは何の料理にも付くジャガイモを煮た物。これをウイーンで一番有名なレストラン「グリーンヒェンパウスル」で戴きました。五〇

〇年の歴史を持つこの店は、ベートーベンやモーツァルトが常連だった事でも有名で、壁に彼らのサインがびっしり書き込まれた部屋があり、そこで食事を戴きました。

五カ月後の「ウイーン冬紀行」という番組を見ていましたらタレントがレストランに行き説明を受けていました。ベートーベンのサインはこれでモーツァルトは・・・なんとそこに「星澤幸子」のサインが大きく映し出されたではありませんか！ほとんどが英語のサインですから目立つこと。

勝手にしてきたわけではありませんが。添乗員の計らいで許可されたのですから・・・。それにしても五〇〇年もの歳月を経たお側において戴いて「運命」を感じましたし「月光」は私も大好きな曲です。すぐにでも行きたいウイーンがより身近な物に感じてしまいました。

サインも待っていてくれるでしょう、誰とそのサインに再会することになるのか、我が運命はいかに。



幸子の

映画食べある記